

# 足立区の野草

## ポケットガイド



ヘクソカズラ (H. 0)

携帯用野草写真絵図鑑

## はじめに

足立区には荒川堤、舎人公園等の都立公園、都市農業公園等の区立公園があります。これらの空間は勿論ですが民家周辺にも野草観察に適した場所があります。すでに冊子“荒川の野草”が出版されましたがまもなく絶版となり、新たな野草観察の図鑑の発行が望まれていました。その後、“足立区の野草”が作成されましたが、観察時の携帯に不便であるため、小型サイズの観察図鑑の発行が期待されてきました。

このような要望に応えるため、本冊子は足立区で観察された約450種のうち、日頃なじみの深い野草を中心に58科341種を、携帯に便利な写真と絵の図鑑として発行することになりました。野草観察に利用していただけたら幸いです。足立萌えぎの会故宮川格及び綿引寿三郎両氏には写真の一部提供を受けました。

**野草写真の見方：**野草写真下の記述の意味は下記のとおりです。



**アキノエノコログサ：**イネ科①花8-10

アキノエノコログサ：種名、イネ科：科名、①：一年草

①②：越年草（一・二年草） ③：多年草、花8-11：開花月、以降解説。  
野草名を調べるのに役立つ花の色と開花時期を末尾の索引に付しました。  
花の色の系統： 色識別困難：、開花期：春、夏、秋  
開花期：多くは季節にまたがる。花の色：単色は少なく目安として下さい。

**春の七草：**セリ、ナズナ、ゴギョウ（ハハコグサ）、ハコベラ（ハコベ）、  
ホトケノザ（コオニタピラコ）、スズナ（蕪）、スズシロ（大根）。

**秋の七草：**ハギ、オバナ（ススキ）、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ。

## もくじ

1) 足立区での野草観察スポット	2
2) 野草の科別索引	4
3) 野草用語解説	5
4) 葉や茎の構造	7
5) 花の構造や葉のつくり	8
6) 野草写真集	9
7) 野草画集	66
8) 観察に役立つ情報	
a: タンポポ探偵団・色々なタンポポを探そう	85
b: 草笛をつくろう	86
c: ギンギン類(5種類)の見分け方	87
d: アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの見分け方	88
e: 食べられる野草と毒草	88
9) 索引(アイウエオ順、花の色と開花期併記)	89
最新情報	
a: ヒルザキツキミソウの結実と種子の雨滴流出	1
b: ヤセウツボがアベリアに寄生	96
c: つる植物の巻き方	96

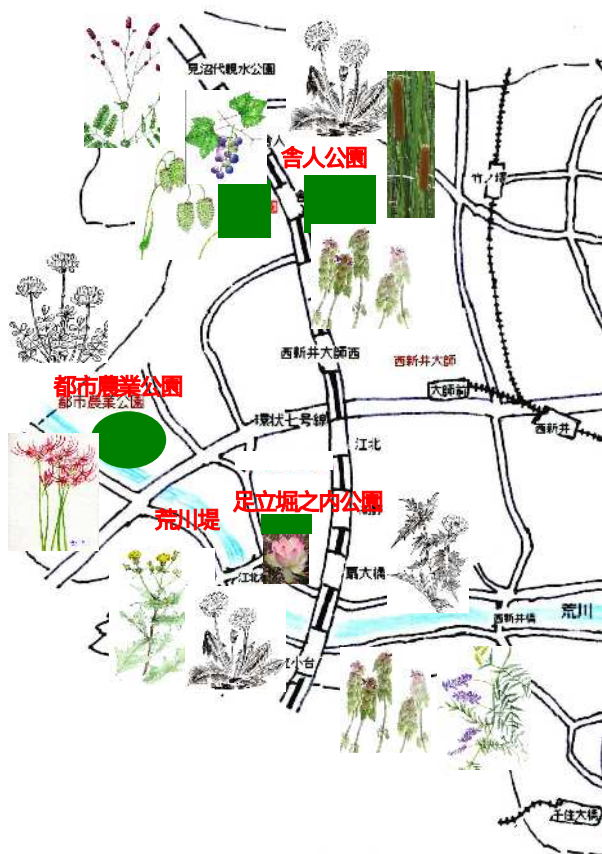


### ヒルザキツキミソウの結実と種子の雨滴流出

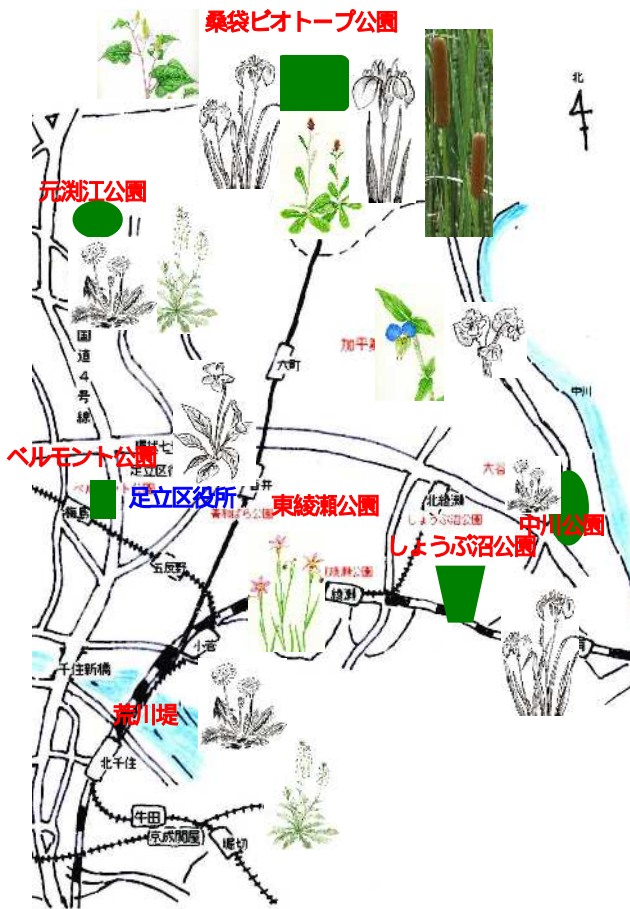
本種は日本では結実しないとされていますが、その群落の一部で結実が確認されました。果実は濡れると開き、雨滴で流出し種子が伝播されます(写真は舎人公園での観察 2012年、写真左：開花と結実、同右：種子)。

## 足立区での野草観察スポット

足立区での野草観察スポットです。これ以外にも、身近な公園や民家周辺にも適地があります。ポケットガイドを持参して観察を始めましょう。



# 足立区での野草観察スポット



## 野草の科別索引

### 単子葉類

イネ科	9
ガマ科	15
カヤツリグサ科	16
イグサ科	18
ラン科	19
ユリ科	19
アヤメ科	21
ツククサ科	21
ヤマノイモ科	22
サトイモ科	23
ヒガンバナ科	23

### 双子葉植物合弁花

オミナエシ科	23
キツネノマゴ科	24
シソ科	24
クマツヅラ科	26
オオバコ科	26
ハマウツボ科	27
ムラサキ科	27
ナス科	27
アカネ科	29
サクラソウ科	29
キキョウ科	29
ヒルガオ科	30

キク科	33
ガガイモ科	41
ウリ科	41

### 双子葉植物離弁花

フウロソウ科	42
セリ科	42
ナデシコ科	43
キンボウゲ科	45
アブラナ科	46
スミレ科	48
ケシ科	48
トウダイグサ科	49
クワ科	50
アカバナ科	50
バラ科	51
スベリヒコ科	52
カタバミ科	53
アカザ科	53
ブドウ科	54
ツゲ科	55
タデ科	55
ドクダミ科	58
ヒコ科	58
ツルナ科	59
ベンケイソウ科	59
アリノトウグサ科	64

アオイ科・・・・・・・・・・60  
オシロイバナ科・・・・・・・・60  
マメ科・・・・・・・・・・60  
ヤマゴボウ科・・・・・・・・64  
ミソハギ科・・・・・・・・・・64  
イラクサ科・・・・・・・・・・64  
スイレン科・・・・・・・・・・64

ユキノシタ科・・・・・・・・65  
ウマノスズクサ科・・・・・・・・65  
**シダ植物**  
トクサ科・・・・・・・・・・65



### 野草用語解説

**一年草**：春発芽し、夏～秋に結実してその年に枯れる。

一・**二年草**：秋ころ発芽して越冬し、春に開花結実して枯れる(越年草)。

**二年草**：生育期間が満1年以上にわたる野草で、発芽した年には花が咲かず、2年目から咲いて結実しその冬までに枯死する。

**多年草**：2年以上にわたり成育し、毎年開花結実する(宿根草)。

**完全花と不完全花**：萼(ガク)、花冠、オシベ、メシベの4つの部分が揃っている花は完全花で、これらの1つが欠けている花は不完全花。

**受粉形態**：風媒花(風が媒介：イネ科、カヤツリグサ科など)、虫媒花(昆虫が媒介：マメ科、ラン科、シソ科など)。

**地下茎のいろいろ**：根茎(ヨシ、シダ、レンコン、ナルコユリなど)、球茎(ウラシマソウ、ハマスゲ、オモダカなど)、鱗茎(ノビル、ムラサキカタバミ、ユリなど)、塊茎(キクイモ、ジャガイモなど)。

**果実のいろいろ**：さく果(ヤマユリ、スミレ、アサガオなど)、袋果(ガガイモなど)、豆果(カラスノエンドウなど)、長角果(イヌガラシなど)、短角果(ナスナなど)、瘦果(タンポポなど)。

**距**：萼(ガク)や花弁の一部が管状に突出したもので、スミレの花がその代表。

**ゲノム**：全遺伝情報で種固有の染色体の一組またはその中のDNAの総体。

**倍数体**：染色体の倍数性。染色体数は植物の種毎に一定で、花粉と卵細胞の核には一個のゲノムがあり(基本数)、受精の結果できた子のゲノムは2個(基本数の2倍)でこのような固体を2倍体という。通常の植物は2倍体であるが、3,4,5,6倍体等もあり、4倍体や6倍体は2倍体と比較して葉や果実が大型化する。2倍体と4倍体が交配してできたものが3倍体で、これは染色体数が奇数で正常な減数分裂が起こらないため受精しない。

**葉舌**：葉身と葉鞘の境目にある舌状の薄片でイネ科にある。

**葉腋**：葉の付け根。葉と茎の接続部分。

**葉脈**：葉に分布する細い管で、茎から通じている維管束（導管や篩管など）で水分や養分の通り道。イネ科などは平行脈、シソ科などは網状脈。

**花柄**：花梗ともいって個々の花を着ける枝。同様に**果柄(果梗)**もある。

**花序**：花が茎に着く配列状態で、総状花序、穂状花序、頭状花序、散形花序などがある。

**腋花**：葉腋に着く花でシソ科などが挙げられる。

**中肋**：葉の中央を縦に通っている太い葉脈で主脈、中脈ともいう。

**閉鎖花**：花が開かず閉じたまま自家受粉する花で、スミレ類は春には普通の花をつけ、夏には閉鎖花を着けることが多い。

**根生葉(根出葉)**：非常に短い茎に多数の葉が地面に接して着くことで、根から生じたように見える葉。タンポポなどでは冬ロゼットを形成する。

**ロゼット葉**：地上部の基部からでた葉が地面を這うように放射状に広がった状態で、風の抵抗を避け少しでも多くの陽を受けて冬の寒さを防ぎ、光合成の向上を行う。タンポポ、ノゲシ、ヒメジョオン、オオバコ、メマツヨイグサ、ギシギシ、ヒメムカシヨモギ、アメリカオニアザミなど。

**苞葉**：葉の変形したもので、芽や蕾を包む花の下に着く葉のことでツユクサが1例である。

**芒(禾)**：イネ科植物の花の外殻(外花穎)にある針状突起。

**装飾花**：オシベ、メシベが退化し花冠と萼だけが発達し種子が出来ない花で、中性花、無性花ともいう。アジサイの花は装飾花。

**花の構成名用語・・・8頁の花の構造を参照下さい。**

**花冠(かかん)**：1つの花の花びら全体をいう。

**メシベ**：柱頭 花柱および子房。 **オシベ**：葯と花糸。

**柱頭**：メシベの先端のことで、ここに花粉が着き受精する。

**葯**：オシベの先端にあって花粉を包んでいるもの。

**花柱**：メシベの一部で柱頭と子房の間の円柱状の部分。

**花糸**：オシベの葯を支える柄の部分。

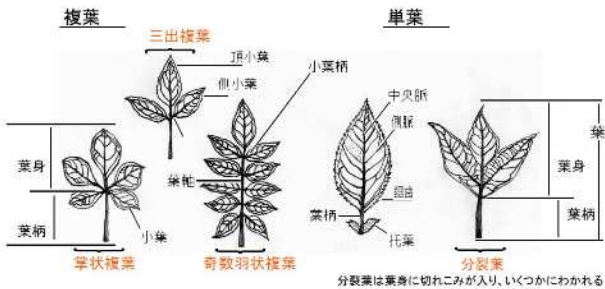
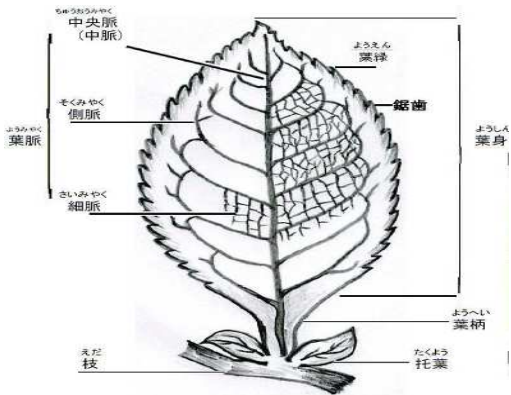
**子房**：メシベの下部のふくらんだ部分。 **花弁**：花びらのこと。

**胚珠**：種子となるもの。 **花被片**：花びらまたは萼片(ガクヘン)。

**花托(花床)**：花柄の先で花を着ける部分。

**萼(萼片)**：花びらがはっきり形の違う内外2層に分かれているとき、外側の花びらをいう。





### 葉や茎の構造



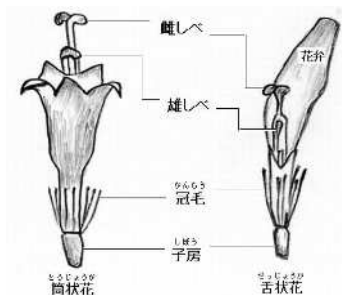
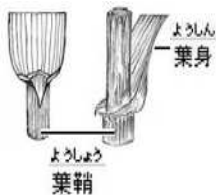
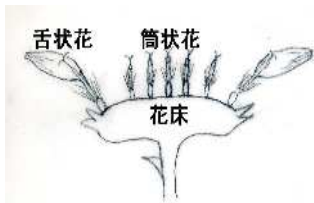
合弁花



離弁花

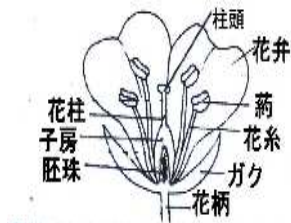
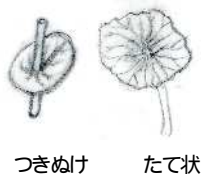


コンニャクの花 (舎人公園)

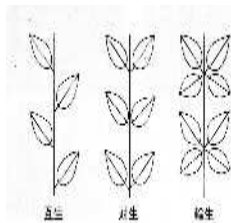


キク科の頭花(舌状花、筒状花も同構造)

### 頭状花のつくり



### 花のつくり 花の構造



### 葉のつき方 葉のつくり

オシベ(薬、花糸)

メシベ(子房、花柱、柱頭)

## 野草写真集



**アキノエノコログサ：イネ科 ①**  
花8-10 花穂は大きく垂れる。  
エノコログサより開花が遅い。



**エノコログサ：イネ科 ①**  
花8-10 犬ころ草の転訛で子犬  
の尻尾のよう。別名ネコジャラシ。



**キンエノコロ：イネ科 ①** 花9-10  
穂は黄金色に見える。エノコログサ  
類は、みな粟の仲間です。



**ムラサキエノコログサ：イネ科 ①**  
花8-10 穂は紫がかかるがエノコロ  
グサに似ている。



**オオエノコログサ：イネ科 ①**  
花8-10 粟とエノコログサの  
雑種で、穂は大きく直立する。



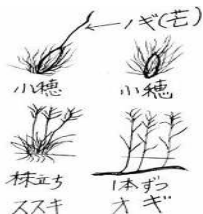
**セイバンモロコシ：イネ科 ③**  
花8-10 キビの仲間。根茎を伸  
ばして増え、小穂は散漫に広がる。



**オギ**：イネ科 ③ 花9-10 湿地に群生。地下茎で横にはびこり、株立ちしない。小穂にノギを欠く。



**ススキ(尾花)**：イネ科 ③ 花8-10 菅簀に使用する。秋の七草の一つ。株立ちし、小穂にノギがある。



**オギとススキの見分け方(上図)**  
オギの穂はススキに比べて銀白色の白さが目立つ。



**アシ(ヨシ)**：イネ科 ③ 花8-10 湿地に生育。茎でヨシズを作る。オオヨシキリは茎の貝殻虫を食す。



**イヌムギ**：イネ科 ③ 花5-7 名の由来は麦に似るが役に立たない(犬)から。茎は3-4本束生する。



**ネズミムギ**：イネ科 ⑩⑫ 花5-8 ホソムギに似るが、小穂にノギがあるので区別が可能です。



**ホソムギ**：イネ科 ③ 花5-8  
ネズミムギと共に牧草として  
輸入された。小穂にノギを欠く。



**カモシグサ**：イネ科 ③ 花5-7  
紫がかった小穂が垂れる。昔女子が  
若葉でカモジにして遊んだ。



**イチゴツナギ**：イネ科 ③ 花5-7  
スズメノカタビラより大形。穂軸  
がざらつく。葉舌は白く目立つ。



**スズメノカタビラ**：イネ科 ①②  
花3-6 道端などあちこちに生え  
葉は柔らかい。葉舌は白く半円形。



**カゼクサ(ミチシバ)**：イネ科 ③  
花8-10 風で花穂が揺れる。株立  
ちし、なかなか抜けない。



**イヌビエ(ノビエ)**：イネ科 ① 花7-9  
あちこちに生え役に立たないヒエ  
の意味。茎は叢生し、葉舌を欠く。



**ケイヌビエ**：イネ科 ❶ 花7-9  
小穂の先端に紫褐色の長いノギがある。イヌビエの変種で湿地を好む。



**シマスズメノヒエ**：イネ科 ❸  
花8-9 在来種のスズメノヒエと違い茎葉に軟毛を欠く。



**クサヨシ**：イネ科 ❸ 花5-7  
アシ(ヨシ)に似ているので草のヨシ。湿地に群生し地下茎を伸ばし繁殖。



**カナリークサヨシ**：イネ科 ❶  
花5-8 カナリアの餌用に導入され野生化。花序は3-5 cmの長卵形。



**カモガヤ**：イネ科 ❸ 花7-8  
チモシーと共に輸入牧草。別名オーチャードグラス。花粉症に。



**オオアワガエリ(チモシー)**：イネ科 ❸ 花6-8 花穂が円柱形で粟に似ている。小穂は数mmの扁平倒卵形。



**カズノコグサ**：イネ科 ①②  
花4-7 穂がカズノコに似ている。  
田など湿地を好む。



**ヒエガエリ**：イネ科 ①②  
花5-8 ヒエに似るがより小形。  
日当たりのよい湿地を好む。



**ムラサキネズミノオ**：イネ科 ③  
花9-11 全体が大形、穂が紫赤色  
で線形。日当良好の道端等に生える。



**メシバ**：イネ科 ① 花7-9  
地を這う茎の節から根をだし繁殖  
する。オヒシバより全体が繊細。



**オヒシバ**：イネ科 ① 花7-9  
メシバに似るが、葉や茎は丈夫  
で大きく、引抜き難い。



**チカラシバ**：イネ科 ③ 花8-10  
茎は密生し大株に。穂はブラシ状  
で力を入れても容易には抜けない。



**コブナグサ**：イネ科 ❶ 花8-10  
葉が小鰯に似る。黄八丈の染料。  
小穂は緑～紫と変化が多い。



**チガヤ**：イネ科 ❸ 花4-6  
群生するので千のカヤ。根茎は薬  
用に。幼穂はツバナで食べられる。



**スズメノテッポウ**：イネ科 ❶❷  
花4-6 水田の雑草。穂は鉄サビ  
色。穂を抜取った葉鞘を草笛に。



**コバンソウ(倭麦)**：イネ科 ❶  
花5-7 穂が小判に似て小判草。  
観賞用として輸入。群生する。



**ヒメコバンソウ**：イネ科 ❶  
花5-7 コバンソウより全体小  
さく繊細。足立区には少ない。



**キシウズメノヒエ**：イネ科 ❸  
花7-9 紀州で発見。湿地に群生  
する(舎人公園)。花序2が特徴。





**ウシノシッペイ**：イネ科 ③  
花7-10 果穂が牛追いの鞭に似ている。小穂は軸に張り付く。



**ジュズガマ**：イネ科 ③ 花8-10  
実を連結し数珠に。めしべは糸形。根は川穀根といって薬用に。



**オオクサキビ**：イネ科 ① 花8-10  
葉に太い中脈がある。キビに似る。花穂の下部は葉鞘に包まれている。



**ムギ**：イネ科 ①② 花5-8  
穂は六条オオムギに似ている。砂地、道端などに生える。



**チヂミザサ**：イネ科 ③  
花9-10 チジミザサ属。葉が笹に似ていて縮む。コブナグサに似る。



**コガマ**：ガマ科 ③ 花6-8  
雌花穂上に雄花穂が接して着き雄花穂は、間もなく散る。



**ヒメガマ**：ガマ科 ③ 花6-8  
ガマ属だけの科。雌花穂上に花穂  
が離れて着く。舎人公園に多い。



**アゼナルコ**：カヤツリグサ科 ③  
花5-7 垂れ下がった小穂を鳴子  
になぞらえた。



**ミコシガヤ**：カヤツリグサ科 ③  
花5-6 花序の形をみこしに例えた。  
穂の基部に長い包葉がある。



**タマガヤツリ**：カヤツリグサ科 ①  
花8-9 茎先に苞が2-3個あり、そこ  
から枝を出し玉状の花穂を作る。



**ヌマガヤツリ**：カヤツリグサ科 ①  
花9-10 湿地に。卵形の花穂が特徴。  
苞が非常に長い。茎は三角稜。



**アゼガヤツリ**：カヤツリグサ科 ①  
花8-9 湿地を好み茎は細く硬い。  
赤褐色の小穂は、まばらに開く。



**サンカクイ**：カヤツリグサ科 ③  
花7-10 茎が三角で、苞は直立しているのが特徴。



**ヒメクグ**：カヤツリグサ科 ③  
花7-10 茎の先に長い苞を2-3個着け、その間に球形の花穂が一個。



**フトイ**：カヤツリグサ科 ③ 花7-10  
大形で茎が太く丸く花穂(写真右)と茎は柔らかくすべすべしている。



**ハマスゲ**：カヤツリグサ科 ③  
花7-10 花穂は、線香花火状を呈する。塊茎は漢方薬に利用される。



**コゴメガヤツリ**：カヤツリグサ科  
① 花7-10 カヤツリグサに似るが、穂が小さく黄色っぽい。



**メリケンガヤツリ**：カヤツリグサ科 ③ 花5-8 小穂が球状に密集する。茎は3稜形で太い。



**キンガヤツリ**：カヤツリグサ科 ❶  
花8-10 多数の金色の小穂は  
ブラシのように見える。



**カヤツリグサ**：カヤツリグサ科 ❶  
花7-10 茎は三稜形。茎の先に  
苞が3-4個。線香花火状の小穂。



**ウキヤガラ**：カヤツリグサ科 ❸  
花5-7 葉状の2-4個の長い苞の  
間の枝に小穂をつける。



**イ**：イグサ科 ❸ 花6-9  
円柱形の茎先に穂をつけ、円形の  
苞葉がその上に伸びる。畳表に。



**クサイ**：イグサ科 ❸ 花6-9  
茎は細く葉は扁平。茎の先に扁平  
な長い苞と丸い果実が数個つく。



**アオコウガイゼキショウ**：イグサ科  
❸花8-9 湿地好。茎と葉は偏円筒形。  
葉は茎より短く、頭花は集散状。



**スズメノヤリ**：イグサ科 ㊦  
花4-5 茎の先の集合花が大名の毛槍に似ている。



**ネジバケ(モジズリ)**：ラン科 ㊦  
花6-8 花がらせん状に巻く。  
左・右巻きがあり。白花もある。



**ジャノヒゲ**：ユリ科 ㊦ 花7-8  
何処でも見られ、日陰に強い。  
青い実を竹鉄砲の弾に使った。



**ツルボ(蔓穂)**：ユリ科 ㊦ 花8-10  
葉は扁平で株基から2枚出る。  
ネギのような匂いがする。



**ニラ(韭)**：ユリ科 ㊦ 花8-9  
全体に硫黄化合物の匂いがする。  
栽培種が野生化している。



**ノビル(野蒜)**：ユリ科 ㊦ 花6-7  
鱗茎や葉を食用に。荒川堤など  
何処でも見られる。



**ハナニラ**：ユリ科 ③ 花3-5  
花が美しく、葉が萼（にら）に似ている。薄紫色の花もある。



**ハタケニラ**：ユリ科 ③ 花3-6  
長さ50cm位の花茎を伸ばし、6弁の花を房状に着ける。



**ニッコウキスゲ**：ユリ科 ③  
花5-7センチカ。足立区では珍しく舎人公園に生育している。



**ハラン**：ユリ科 ③ 花4-5  
お握りを包む。寿司の仕切りに。地面際に王冠のような紫花が咲く。



**ノカンゾウ**：ユリ科 ③ 花7-8  
一重のラッパ状の一日花。  
葉の主脈はへこむ。



**ヤブカンゾウ**：ユリ科 ③ 花7-8  
ノカンゾウより大きく八重咲き。  
葉の先が垂れる。



**ヤブラン**：ユリ科 ③ 花8-10  
木陰を好む。古くから庭園に植え  
られている。秋、黒紫の果実が実る。



**シャガ**：アヤメ科 ③ 花4-6  
林内などやや湿地に生え根茎増殖。  
花弁に濃紫と黄色の模様がある。



**キショウブ**：アヤメ科 ③ 花5-6  
湿地に野生化。大きく株立ちする。  
舎人公園でも見られる。



**ニワゼキショウ**：アヤメ科 ③  
花5-6 園芸種が野生化。葉がセキ  
ショウに似る。白紫と紫花がある。



**ツククサ**：ツククサ科 ① 花6-9  
花弁2個は青、1個は白(小)。  
大花の大帽子花(4倍体)は変種。



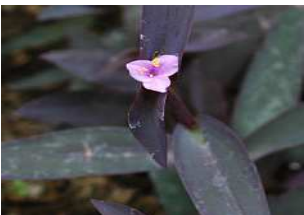
**マルバツククサ**：ツククサ科 ①  
花7-10 葉が丸っぽく縁は波打ち花  
は小さい。地下に閉鎖花ができる。



**トキワツユクサ**：ツユクサ科 ③  
花7-10 三角形の白い花が咲く。  
道ばた野原などで見かけ斑入り有。



**ムラサキツユクサ**：ツユクサ科 ③  
花4-7 茎は伸び 葉は細長し 雄蕊  
の毛を細胞の原形質流動に使う。



**ムラサキゴテン**：ツユクサ科③  
花6-9 全体紫色で葉はやや厚し。  
園芸種でよく見かける。



**ヤブミョウガ**：ツユクサ科③花8-9  
林内でよく見かける。花は両性花と  
雄花が混じる。ミョウガの葉に似る。



**ヤマノイモ**：ヤマノイモ科 ③  
花7-8 別名自然薯。葉は対生で  
腋にムカゴをつける。雌雄異株。



**オニドコロ**：ヤマノイモ科 ③  
花7-8 ヤマノイモと異り葉は互生。  
ムカゴはつけない。雌雄異株。





**カラスビシャク**：サトイモ科 ㊦  
花5-7 仏炎苞を柄杓に見立てた。珠芽で増える。畑の雑草でもある。



**ショウブ**：サトイモ科 ㊦ 花5-7  
水辺に群生。全体に芳香があり端午の節句菖蒲湯に。葉は剣葉。



**タマスタレ**：ヒガンバナ科 ㊦  
花6-9 白い花を玉に、葉の集まりを簾に見立てた。6弁花で葉は細長。



**ヒガンバナ**：ヒガンバナ科 ㊦  
花9 秋の彼岸に開花。球根は有毒。マンジュシャゲ。白花も(写真右)。



**オミナエシ**：オミナエシ科 ㊦  
花7-10 女郎花。秋の七草。葉は対生し羽状に裂ける。



**オトコエシ**：オミナエシ科 ㊦  
花8-10 男郎花。葉は対生し羽状に裂けるが幅が広い。



**キツネノマゴ**：キツネノマゴ科 ❶  
花8-10 葉は対生長楕円形。枝先に穂状の花序。淡紅紫色の唇花。



**オドリコソウ**：シソ科 ❸ 花3-6  
白が淡紅紫色の唇花。茎は柔らかく四角形で直立し節に長い毛がある。



**ヒメオドリコソウ**：シソ科 ❶❷  
花3-6 オドリコソウより小形。上葉は赤紫色で密集し群生する。



**ホトケノザ**：シソ科 ❶❷ 花3-6  
葉を蓮座に見立てた。三階草ともいう。群生する。



**カキドオシ**：シソ科 ❸ 花4-5  
蔓が屋根まで。蔓の節から根を出し増殖。子供の癩をとる生薬。



**メハジキ**：シソ科 ❶❷ 花7-9  
茎は四角。生薬の益母草(ヤクモソウ)。草丈は1m以上に伸びる。



**シソ**：シソ科 ❶ 花8-10  
 芳香野菜が野生化した。赤・青ジソあり。アオジソはオオバとも。



**タツナミソウ**：シソ科 ❸ 花5-6  
 葉は数対が対生し、両面に軟毛が多い。コバノタツナミは変種。



**シモバシラ**：シソ科 ❸ 花9-10  
 香りは無い。シモバシラ属は日本に1種、中国に1種あるのみ。



**シモバシラの霜柱**(舎人公園)、冬枯れた株元に毛管現象で水が上昇し冷却され、芸術的な霜柱が生成する。



**ミソコウジュ**：シソ科 ❷ 花5-7  
 葉は対生、茎は四角。香りがよい。溝や湿地に生え准絶滅危惧種。



**ナギナタコウジュ**：シソ科 ❶ 花9-10  
 花穂の形を薙刀に見立てた。穂の片方に花が着く。全体強い香り。



**キランソウ**：シソ科 ③ 花3-5  
シソ科では珍しく丸い茎が地を這い  
広がる。地獄の釜の蓋とも。



**ハッカ**：シソ科 ③ 花8-10  
目薬に使い目草とも。地下茎で増え、  
舎人公園に群生。メントール含有。



**アレチハナガサ**：クマツツラ科 ③  
花6-9 全体剛毛でざらつく。茎は  
直立し四角。ヤナギハナガサに似る。



**オオバコ**：オオバコ科 ③ 花4-9  
葉が広く大葉子。踏みつけた道で  
も平気。生薬に。オオバコ相撲。



**ヘラオオバコ**：オオバコ科 ①花6-7  
葉はヘラ形。コンクリートの隙間  
などにも生える。花は線香花火状。



**ツボミオオバコ**：オオバコ科 ①②  
花4-7 全体が白い毛で覆われる。  
穂の花が蕾のままのように見える。



**ヤセウツボ**：ハマウツボ科 ①  
花5-6 マメ科 セリ科などに寄生し、将来農作物に被害が出そう。



**ナンバンギセル**：ハマウツボ科①  
花7-9 花の形が煙管に似ている。ススキ、ミョウガなどに寄生する。



**キュウリグサ**：ムラサキ科 ⑫  
花3-5 葉をもむとキュウリの香りがする。比較的半日陰を好む。



**ハナイバナ**：ムラサキ科 ⑫  
花3-10 キュウリグサに似るが茎上部の葉と葉の間に花が咲く。



**ヒレハリソウ**：ムラサキ科 ③  
花6-7 コンフリー。薬用栽培種が野生化。有害性が指摘されている。



**アメリカイヌホオズキ**：ナス科 ①  
花8-10 花は淡青紫色(白もある)で果実につやがある。



**イヌホオズキ**：ナス科 ❶ 花8-10  
花は白、熟した黒い果実につやがない。別名バカナス。



**ヒヨドリジョウゴ**：ナス科 ❶  
花8-10 花枝と葉が互生。全体軟毛多し。山野草。液果は球形で赤い。



**ワルナスビ**：ナス科 ❸ 花6-9  
茎、葉に鋭い棘がある。淡紫色の花もある。丸い液果は1cmくらい。



**ホオズキ**：ナス科 ❸ 花6-7  
地下茎で増える。開花後ガクが袋状に伸び液果を包む。生薬にも。



**ヤエムグラ**：アカネ科 ❶❷ 花5-6  
茎は四角。葉や茎に下向の棘がある。葉は6-8枚輪生する。



**ハナヤエムグラ**：アカネ科 ❶❷ 花5-9  
ヤエムグラより花が目立つ。葉は4-6枚輪生し小さく、茎に下向の棘。



**ヘクソカズラ**：アカネ科 ③ 花 8-9  
花の形でヤイトバナ。葉や茎を揉むと悪臭がある。つるは左巻き。



**コナスビ**：サクラソウ科 ③ 花 5-6  
茎には軟毛が多く地面を這う。丸い果実を茄子に見立てた。



**サクラソウ**：サクラソウ科 ③ 花 4-5  
比較的湿地を好む。殆ど見られなくなったが、園芸種が多く見られる。



**キキョウ**：キキョウ科 ③ 花 7-9  
秋の七草。八重、二重や白花など園芸種が多い。根は太く黄白色。



**キキョウソウ**：キキョウ科 ① 花 5-7  
ダンダンギキョウ。花は葉腋に着き茎の下では閉鎖花、上では普通花。



**ホタルブクロ**：キキョウ科 ③  
花 6-7 茎の上に釣鐘状の花を着ける。林内など反日陰に自生する。



**ヒルガオ**：ヒルガオ科 ③ 花6-8  
昼間開花。葉の基部両側は耳状  
下向に突出し花柄上部に翼は無い。



**コヒルガオ**：ヒルガオ科 ③ 花6-8  
葉の基部の左右の耳は広角に張り  
出す。花柄の上部に縮れた翼がある。



**マメアサガオ**：ヒルガオ科 ①  
花7-9 葉は広卵形、先が細長く  
尖り基部は心形、全縁か3裂。



**マルバルコウ**：ヒルガオ科 ① 花8-10  
花冠は上から見て五角形で径15-20  
mm。ルコウソウに似るが葉が丸い。



**ハゴロモルコウ**：ヒルガオ科 ①  
花8-10 ルコウソウとマルバル  
コウの雑種。葉はモミジ葉状。



**アゼナ**：ゴマノハグサ科 ① 花8-10  
やや湿気のある田の畦などを好む。  
葉は全縁。花冠は唇形で薄紅紫色。





**アメリカアゼナ**：ゴマノハグサ科

① 花6-9 やや湿地に生える。  
葉に波状の鋸歯がある。



**オオイヌノフグリ**：ゴマノハグサ科

①②花3-5 茎の上の葉腋からルリ  
色の花が。果実が犬の陰囊に似る。



**タチイヌノフグリ**：ゴマノハグサ科

①② 花4-6 花はオオイヌノフグリ  
より小さい。茎は立ち上がる。



**フラサバンウ**：ゴマノハグサ科①②

花3-5 茎は下部で分岐し、横に広  
がる。花弁の基部での結合が特徴。



**トキワハゼ**：ゴマノハグサ科 ①

花4-10 ムラサキサキゴケの様な  
匍匐枝を出さない。



**ムラサキサキゴケ**：ゴマノハグサ科

③ 花4-6 湿った畦道に多い。  
匍匐枝を出す。白花はサギゴケ。



**オオカワヂシャ**：ゴマノハグサ科  
 ③ 花5-7 湿地に多く生える。  
 在来のカワジシヤより大形。



**カワヂシヤ**：ゴマノハグサ科 ①②  
 花5-7 湿地を好む。花期の花柄が  
 真直く斜上。若葉は食用になる。



**まつばウンラン**：ゴマノハグサ科  
 ①② 花4-6 葉が松葉状、花がウン  
 ランに似る。花は総状花序。



**ウリクサ**：ゴマノハグサ科 ①  
 花8-11 果実が瓜に似る。蒴果は  
 楕円形で萼に包まれている。



**つたウンラン**：ゴマノハグサ科  
 ①花6-8 観賞用が野生化。葉は  
 掌状に5-7 浅く切れ込む。



**ムシクサ**：ゴマノハグサ科 ①花4-5  
 湿地を好む。葉腋に小さい白花が。  
 ハート形果実を着生。虫えい研成。



**セイタカアワダチソウ**：キク科 ③  
花9-11 茎は茶褐色でザラつく。  
地下茎でも増える。



**イガオナモミ**：キク科 ① 花7-11  
オオオナモミに似るが、果苞表面の  
棘に毛が多く、棘の先端が曲る。



**オオオナモミ**：キク科 ① 花8-11  
オナモミより果苞数が多く棘が蜜で  
先端の突起が大きい。ひっつき虫。



**ジシバリ**：キク科 ③ 花4-6  
細長い茎が地面を這い 茎から根を  
張る。山野の日当たりを好む。



**オオジシバリ**：キク科 ③ 花4-6  
茎は地を這って伸びる。ジシバリ  
より葉や花が大。茎切断で白汁が。



**カントウタンポポ**：キク科 ③ 花3-5  
総苞外片が反り返らず先に角状突起  
が。球形綿毛をタンポに見立てた。



**セイヨウタンポポ**：キク科 ③  
花3-10 総苞外片が反り返る。単  
為生殖で繁殖力大。遅くまで開花。



**雑種タンポポ**：キク科 ③ 花3-10  
セイヨウ・カントウタンポポの雑種  
総苞外片の反り返りは両者の中間。



**シロバナタンポポ**：キク科 ③ 花4-5  
西日本に多いが、関東にも自生。  
在来種5倍体で単為生殖をする。



**アカミタンポポ**：キク科 ③ 花4-10  
本タンポポの特徴は果実の色が  
赤褐色。他のタンポポは黄土色系。

(タンポポの見分け方は85頁をご参照下さい)



**ノボロギク**：キク科 ① 花3-10  
花後は白い冠毛が目立つ。  
舎人公園で多く見られる。



**コウゾリナ**：キク科 ② 花5-10  
全体粗毛でざらつき手が切れそう  
な感じ。根生葉は花期には枯死する。



**ハハコグサ**：キク科 ①② 花 4-6  
春の七草。オギョウ。ホオコグサ。  
全体綿毛で覆われている。草餅に。



**チチコグサ**：キク科 ③ 花 5-10  
茶褐色の頭花の下に苞葉が放射状  
に着く。匍枝を出して繁殖する。



**チチコグサモドキ**：キク科 ①②  
花 5-10 チチコグサに似るが茶褐色  
の頭花が穂状花序。



**ウラジロチチコグサ**：キク科 ③  
花 5-8 葉の裏面に綿毛があり  
白いので見分けがつく。



**キツネアザミ**：キク科 ①② 花 5-6  
普通に見られる。葉の裏に白い  
綿毛が密生する。葉は軟らかい。



**アメリカオニアザミ**：キク科 ②  
花 7-10 葉の切込み不規則、茎に翼  
が発達。高さ 1m に達し棘が鋭い。



**ノゲシ(ハルノゲシ) : キク科 ②**  
花4-7 葉がケシの葉に似る。茎は  
中空で稜有。葉は基部で茎を抱く。



**アキノノゲシ : キク科 ①②**花8-10  
葉は羽状に裂け、頭花は普通淡黄色  
だが白もある。茎を切ると白汁が。



**オニノゲシ : キク科 ②** 花4-7  
ノゲシに似るが葉は硬く棘が痛い。  
葉は基部で半円状に茎を抱く。



**ハルジオン : キク科 ③** 花4-7  
観賞用が野生化。茎は中空で蕾は垂  
れる。白花が多い。葉は茎を抱く。



**ヒメジョオン : キク科 ①②**花6-10  
葉の基部は茎を抱かない。茎は  
中空ではない。開花が秋まで続く。



**マメカミツレ : キク科 ①** 花3-12  
細い茎の下部は地を這い、上部は  
斜上する。頭状花は緑黄色。



**ハキダメギク**：キク科 ❶ 花6-11  
茎は2分岐を繰り返す。どこでも  
見られる。牧野富太郎命名。



**タカサブロウ**：キク科 ❶ 花7-10  
茎、葉に硬い短毛がありざらつく  
やや湿った道端などに生える。



**ブタナ**：キク科 ❸ 花6-9 葉は  
タンポポ似だが花柄が長く花(写真)  
は黄色。タンポポモドキともいう。



**ブタクサ**：キク科 ❶ 花7-10  
軟毛が有る。風媒花で花粉症の原  
因になる。葉はキバナコスモス状。



**オオブタクサ**：キク科 ❶ 花7-10  
花がブタクサに似る。高さは3m  
にもなる。桑の葉に似ている。



**コセンダングサ**：キク科 ❶ 花8-11  
舌状花なく管状花のみ。果実にカギ  
があり付着。頭花基部に苞を欠く。



**アメリカセンダングサ**：キク科

① 花8-11 頭花基部に葉状の苞が目立つ。種子の棘は2個衣服に付着。



**シロノセンダングサ**：キク科

① 花8-11 コセンダングサの変種。頭花に数枚白い舌状花がある。



**アワユキセンダングサ**：キク科 ①

花7-11 シロノセンダングサより舌状花がかなり大きく、目立つ。



**キクイモ**：キク科 ③ 花8-10

栽培種が野生化し芋は食用に。イヌキクイモは芋が小。葉の基部に翼。



**オニタビラコ**：キク科 ①② 花5-10

道端や路地裏によく生える。茎葉を切ると白液が。花後の冠毛は白。



**コオニタビラコ**：キク科 ①② 花3-5

春の七草のホトケノザ。田に多い。オニタビラコより花茎が短い。





**カントウヨメナ**：キク科 ③花7-10  
川沿いなどに生える。葉の縁には鋸歯がある。花は淡青紫色。



**ノコンギク**：キク科 ③花7-10  
葉はザラつく。茎はよく分岐する。山野の淡青紫色の菊は本種が多い。



**ハルシャギク**：キク科 ①花6-9  
園芸種が野生化し、最近広がる。別名花の姿からジャノメギク。



**ホウキギク**：キク科 ①花8-10  
沢山分岐した花柄をホウキに見たてた。花が終わると綿毛になる。



**ヨモギ**：キク科 ③花9-10  
新芽は草餅に、乾燥葉はモグサに利用。葉汁は止血作用が有る。



**カワラニンジン**：キク科①②花8-9  
河原に多く生え、葉が人参に似る。球形の黄緑色の頭花は下向着生。



**ヒメムカシヨモギ**：キク科 ①②

花8-10 筒状花の舌状花はよく見える(右写真)。茎や葉に粗毛。



**オオアレチノギク**：キク科 ①②

花5-10 頭花に舌状花が無(右写真)いのがヒメムカシヨモギとの区別点。



**アレチノギク**：キク科 ①②花5-10

開花時の側枝は中心花茎より高い。頭花は大きめ。舌状花は目立たず。



**フジバカマ**：キク科 ③ 花8-9

秋の七草。葉は普通3深裂。似たものにヒヨドリバナがある。



**ツバキ**：キク科 ③ 花10-12

冬に咲く花。茎はフキと同じく食用に。庭によく植えられる。



**フキ**：キク科 ③ 花3-5 雌雄異種

食用になり若い花茎はフキノトウとして珍重。栽培種が野生化した。



**ガガイモ**：ガガイモ科 ③ 花8-9 総状花序で淡紫色。つる性の多年草。イケマは白花。茎を切ると白乳液がでる。舟形袋果は10cmにもなる(写真中)。熟した袋果中の種に絹毛状の毛が着き風で飛行(右写真)。



**スズメウリ**：ウリ科 ① 花7-8  
カラスウリより果実が小さく球形か卵形。熟すと灰色になる。

**アレチウリ**：ウリ科 ① 花8-9  
果実は長卵形で数個集まり金平糖状(写真右)、種子は1個。



**カラスウリ**：ウリ科 ③ 花8-9  
雌雄異株。つる性で果実は熟すと朱色で種子はクロワッサン形。

**キカラスウリ**：ウリ科 ③ 花8-9  
雌雄異株。熟果は黄。カラスウリと同様花が立派。根の濃汁は天花粉。



**ゴキツル**：ウリ科 ❶ 花8-11  
果実が熟すと上下2分割(合器)し、  
蓋果の種子は2つ。雌雄異株。



**アメリカフウロ**：フウロソウ科 ❶  
花5-9 葉は基部まで5-7に裂け、  
花は淡紅白色を呈する。



**ゲンノショウコ**：フウロソウ科 ❸  
花7-10 葉は3-5に深裂し、若葉に  
紫黒色の斑点。下痢止めに薬効。



**ヒメフウロ**：フウロソウ ❷花5-7  
葉は対生で深3-5裂。別名シオ  
ヤキソウは匂いが塩を焼いたよう。



**ウチワゼニクサ**：セリ科 ❸ 花4-9  
匍匐した茎から発根。熱帯魚の  
水草。別名タテバチドメグサ。



**アシタバ**：セリ科 ❸ 花8-10  
別名ハチジョウソウ。若葉を茶や  
食用に。茎を切ると黄汁が出る。



**セリ**：セリ科 ③ 花7-8  
春の七草。湿地を好む。食用に。  
白い小さな花を沢山つける。



**チドメグサ**：セリ科 ③ 花6-9  
葉は円形で浅く掌状に裂ける。  
地を這う茎の節から根を出し増殖。



**ノチドメ**：セリ科 ③ 花6-9  
葉は円形で5つ位に深裂する。  
オオチドメは葉の切込みが浅し。



**ヤブジラミ**：セリ科 ①② 花5-7  
葉は2-3回羽状複葉、小葉は細く  
切込む。果実は衣服に付着。



**ハコベ(ミドリ)**：ナデシコ科 ①②  
花2-11 春の七草。花柱3本。  
ハコベ属は花弁5が10に見える。



**コハコベ**：ナデシコ科 ① 花3-11  
ハコベとの区別は難しいが、やや  
小型で茎が暗紫色を帯びる。



**ウシハコベ**：ナデシコ科 ②  
花4-10 ハコベより大形。上部葉は茎を抱く。花柱は5本。



**ノミノフスマ**：ナデシコ科 ⑫  
花4-10 全体に無毛。花弁がガク片より長いが、ハコベはこの逆。



**ノミツツリ**：ナデシコ科 ⑪  
花3-6 花弁はハコベのように深裂せず5個。根元からよく分岐する。



**サボンソウ**：ナデシコ科 ③  
花5-7 全体にサポニンを含み石鹼の代用になる。根は薬用に利用される。



**シロバサマンテマ**：ナデシコ科 ①  
花5-6 全体に粗い毛がある。マンテマの白淡紅色のものをいう。



**ドウカンソウ**：ナデシコ科 ①  
花4-6 江戸(現西日暮里近く)道灌山で栽培された。別名サポナリア。



**オランダミミナグサ**：ナデシコ科  
 ①②花4-5 短毛が多い。花弁が裂け  
 茎はミミナグサほど暗紫色でない。



**ツメクサ**：ナデシコ科 ①②花3-7  
 名の由来は細い葉が鳥の爪に似て  
 いるから。花は5弁(時に退化)。



**カワラナデシコ**：ナデシコ科 ③  
 花7-10 秋の七草。花弁が細く糸状  
 に裂ける。河原に生え白っぽい。



**ムシトリナデシコ**：ナデシコ科  
 ①②花5-6 茎の節下で粘液  
 を出すが食虫植物ではない。



**ケキツネノボタン**：キンポウゲ科③  
 花4-7 金平糖状果実の先はキツネ  
 ノボタンと違い曲らない。毛多し。



**タガラシ**：キンポウゲ科①②花4-7  
 ケキツネノボタンと共に湿地を好  
 む。葉は3深裂。楕円形の集合果。



**ウマノアシガタ**：キンポウゲ科 ③  
花4-5 根生葉は束生、掌状に3-5  
列。集合果は球状。葉は馬の足形？

**センニンソウ**：キンポウゲ科 ③  
花8-9 花後の花柱が変化した白  
い毛を仙人の白髭に例えた。



**ミチタネツケバナ**：アブラナ科 ①②  
花3-5 タネツケバナは湿地に、本種  
は道端など好む。果実が斜上しない。

**ナズナ**：アブラナ科 ①② 花3-6  
春の7草。ペンペン草。果実を  
三味線のバチに例えた。



**マメゲンバイナスナ**：アブラナ科  
①② 花5-7 果実は小さく軍配形。  
ナズナに似るが花が多く果実が丸い。

**イヌガラシ**：アブラナ科 ③ 花4-6  
根生葉は束生で羽状。水田、畦に  
多い。円柱形の果実は弓形に曲る。





**キレハイヌガラシ**：アブラナ科 ③  
花5-6 葉はイヌガラシより深く羽状に裂け、倒伏した茎節から根を出す。



**スカシタゴボウ**：アブラナ科 ①②  
花4-6 イヌガラシより葉が羽状形で、果実は真中が膨んだ短円柱形。



**カキネガラシ**：アブラナ科 ①②  
花5-6 黄色く開花したころの長い枝の絡み合いを垣根に見立てた。



**オランダガラシ**：アブラナ科 ③  
花5-6 クレソン。栽培種が野生化。水辺を好み舎人公園に群生。



**イヌナズナ**：アブラナ科 ② 花3-6  
ナズナに似るが役にたたない。果実は扁平な楕円形で短毛が密生する。



**カラクサナズナ**：アブラナ科①②  
花4-10 茎は基部より多く分岐し斜上。果実は2個の球の結合形。



**スミレ**：スミレ科 ③ 花 4-5  
葉は長楕円状披針形で、葉柄にはやや広い翼がある。花はスミレ色。



**アリアケスミレ**：スミレ科 ③ 花 4-5  
花の色が有明の空のように変化に富む。花卉の線状模様が特徴。



**タチツボスミレ**：スミレ科 ③ 花 4-5  
人家や山地など一般的に見られる。葉は卵形。開花後茎は長く伸びる。



**ナジスミレ**：スミレ科 ③ 花 4-5  
野路で多く見られる。全体に毛が多い。葉柄の翼は目立たない。



**クサノオウ**：ケシ科 ①② 花 5-7  
葉や茎の切断面から黄色の有毒液がでる(草の黄)。葉の裏は白っぽい。



**タケニグサ**：ケシ科 ③ 花 7-8  
全体に白っぽい。茎は中空。汁液は有毒の黄褐色。



**ムラサキケマン**：ケシ科①②花5-6  
少し湿地を好む。赤紫色の総状花。  
葉は2-3回羽状。白花も有る。



**ナガミヒナゲシ**：ケシ科①花4-5  
民家、空き地、公園等に拡散。  
蒴果は長楕円形で長さ2～3cm。



**コニシキソウ**：トウダイグサ科①  
花6-10 葉は対生、長楕円形で葉の  
中心部に暗紫色の斑点が特徴。



**オオコニシキソウ**：トウダイグサ科①  
花6-10 茎は直立か斜上しコニシキ  
ソウより大形。葉の中心斑点欠く。



**トウダイグサ**：トウダイグサ科②  
花4-5 杯状花序が昔使った灯台に  
似ている。乳白汁液は有毒。



**エノキグサ**：トウダイグサ科①  
花8-10 葉がエノキに似る。雌花の  
総苞が編笠形からアミガサソウ。



**コミカンソウ**: トウダイグサ科①  
花7-10 果実の形をミカン果実に見立てた。葉はオジキソウに似る。



**ヒメミカンソウ**: トウダイグサ科①  
花8-10 コミカンソウに似るが横枝と茎に葉が着く。果実は淡黄平滑。



**ブラジルコミカンソウ**: トウダイグサ科①花6-10 葉はハリエンジュ状。雌雄異花。果実は2 mm位。



**クワクサ**: クワ科 ① 花9-10  
葉が桑に似るが、桑にも色々な形がある。葉は鋸歯がありざらつく。



**カナムグラ**: クワ科 ① 花8-10  
茎葉柄に逆さのトゲがある。茎は伸び他の植物に絡む。雌雄異株。



**メマツヨイグサ**: アカバナ科②花7-9  
葉は長楕円披針形で、茎はよく分岐する。マツヨイグサ類で最も多い種。



**オオマツヨイグサ**：アカバナ科 ② **コマツヨイグサ**：アカバナ科 ①②  
 花7-9 園芸種が野生化。花は黄色で 花7-8 全体小形、葉縁が波状浅裂。  
 7-8cm と大きい。4個の花弁は広い。 黄小花。茎は根元で分岐し斜上。



**マツヨイグサ**：アカバナ科 ①② **ユウゲショウ**：アカバナ科 ③ 花5-9  
 花5-8 葉は細く主脈が白でまばらな 栽培種が野生化。薄紅色の丸い  
 鋸歯がある。黄花は萎むと黄赤色に。 花弁に赤色の脈がある。



**ヒルガキツキミソウ**：アカバナ科 ③ **ヘビイチゴ**：バラ科 ③ 花4-6  
 花5-8 昼でも開花し開花時は白色。 地を這う茎節からの新株で増殖し  
 類似：モモイロヒルガキツキミソウ。 果実は無毒。湿地を好む。黄花。



**オヘイチゴ**：バラ科 ③ 花5-6  
ヘイチゴより大。葉は5小葉だ  
が、茎の上部は3小葉。



**オキジムシロ**：バラ科 ③ 花5-8  
茎、ガク片の毛密。奇数羽状複葉。  
キジムシロより葉は小・切込み有。



**ワレモコウ**：バラ科 ③ 花8-10  
奇数羽状複葉。花色は暗紅色。根は  
太く薬草になる。吾亦紅、吾木香。



**キンミズヒキ**：バラ科 ③ 花7-10  
花序をミズヒキに例えた。花は金色  
で全体毛が多く果実はくつき虫。



**スペリヒユ**：スペリヒユ科 ① 花7-9  
花は黄色で小さい。多肉質で砂地の  
乾燥にも耐える。食べられる。



**ハゼラン**：スペリヒユ科 ① 花7-9  
道端等に分布。果実は線香花火状。  
3時花。オシロイバナは4時花。



**カタバミ**：カタバミ科 ③ 花4-11  
夕方閉じる葉が欠けた様に見える。  
葉色が暗赤紫はアカカタバミという。



**オッチチカタバミ**：カタバミ科 ③  
花4-9 カタバミに似るが、茎の  
上部は直立するので区別可能。



**ムラサキカタバミ**：カタバミ科 ③  
花4-10 花弁の基部は緑っぽい。  
花は結実せず、地下鱗茎で増殖。



**イモカタバミ**：カタバミ科 ③ 花6-10  
ムラサキカタバミに似るが、花弁  
基部は濃赤色。芋(塊茎)を形成。



**アカザ**：アカザ科 ① 花8-10  
シロザの変種。若葉が赤粉に覆われ  
美しい。アカザ、シロザ共に食用。



**シロザ**：アカザ科 ① 花8-10  
若葉の葉裏は白っぽい。下葉は  
卵形だが上葉は細長く鋸歯がある。



**コアカザ**：アカザ科 ① 花6-9  
葉はシロザより幅が狭く薄い。  
葉の裏はやや白っぽい。



**ゴウシュウアリタソウ**：アカザ科 ①  
花7-10 根元から多く分岐する。  
葉の裏に腺点があり、匂いがする。



**ケアリタソウ**：アカザ科 ① 花7-11  
植物体に薬臭あり。葉は互生長楕円  
形で粗鋸歯がある。茎や葉は有毛。



**ノブドウ**：ブドウ科 ③ 花7-8  
果実は淡緑・青・白等に変化。  
熟果は食べられない。茎は木質化。



**キレハノブドウ**：ブドウ科 ③  
花7-8 ノブドウの葉形は変化が多い  
が、特に大きく切込んだ葉をいう。



**ヤブガラシ**：ブドウ科 ③ 花7-9  
地下茎を伸ばし繁殖。茎葉を伸  
ばし、他の植物を覆い枯らす。





**フッキソウ**：ツゲ科 ㊦ 花3-5  
葉は常緑。林内によく生える。  
花弁は無く、4個の萼片がある。



**ツルドクダミ**：タデ科 ㊦ 花8-10  
葉がドクダミに似る。薬用として  
栽培されたものが野生化した。



**ヒメスイバ**：タデ科 ㊦ 花5-8  
スイバの小型。葉は鉾形で基部は  
耳状に張りだす。雌雄異株。



**スイバ**：タデ科 ㊦ 花5-7 スカンボ。  
雌雄異株。上葉の基部は茎を抱く。  
果実はウチワ状。酸っぱい食味。



**ギンギシ**：タデ科 ㊦ 花6-8  
葉は長楕円形で縁は鋸状。  
果実の翼は3角形で鋸歯あり。



**アレチギンギシ**：タデ科 ㊦ 花6-9  
他のギンギシ類より繊細。果実  
の周りの翼(内花披片)に鋸歯無し。



**エゾノギンギシ**：タデ科③花6-9  
葉縁は細かく波打つ。果実の翼にとげ状突起有(右写真)。

(ギンギシ類の見分け方は87頁をご参照下さい)



**ナガバギンギシ**：タデ科③花5-9  
ギンギシ類では葉が大で波打つ。果実の翼は丸みあり縁に鋸歯無。



**オオイヌタデ**：タデ科①花6-10  
茎の上部で分岐が多く、節が膨らむ。淡紅色又は白花。



**オオケタデ**：タデ科①花8-10  
栽培種が野生化。高さ2mにも。花は薄紅色。紅色はオオベニタデ。



**シロバナサクラタデ**：タデ科③  
花8-10 湿地に生え地下茎で増殖。サクラタデより花は小さく白色。



**イヌタデ**：タデ科①花6-10  
アカマンマ。ごく普通に見られる。茎の下部は地をはい 群生する。



**ヤナギタデ**：タデ科 ❶ 花6-10  
葉が柳に似て湿地を好む。新芽を  
刺身のツマに(辛味)。花は白淡紅。



**イシミカワ**：タデ科 ❶ 花7-10  
葉は互生で三角形。茎はつる性  
で刺がある。花披が色づく。



**ミチヤナギ**：タデ科 ❶ 花6-10  
道端に生え葉は柳に似る。茎は縦  
スジがある。別名ニワヤナギ。



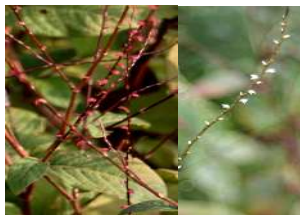
**ミノソバ**：タデ科 ❶ 花6-10  
湿地を好む。葉はソバに似る。  
茎に刺があり花は白～紅色。



**シャクチリソバ**：タデ科 ❸ 花7-10  
薬用植物が野生化。舎人公園に  
群生。花は白で中心部は黄色。



**イタドリ**：タデ科 ❸ 花7-10  
春先の筍状の茎は食べられる。根  
茎を伸ばして増える。雌雄異株。



**ミズヒキ**：タデ科 ③ 花7-9  
花が上から赤、下から白く見える。  
斑入白花有(写真右)半日陰を好む。



**ドクダミ**：ドクダミ科 ③ 花6-7  
半日陰を好み地下茎で増殖する。  
薬草で臭みがある。八重咲有(76頁)。



**ハンゲショウ**：ドクダミ科 ③ 花6-8  
半夏生の頃開花し、上の葉が半分  
白くなり、花後再び淡緑色になる。



**ヒナタイノコズチ**：ヒコ科 ③ 花8-9  
ヒカゲイノコズチに似るが日向に  
生え葉が厚い。果実はひつつき虫。



**ヒカゲイノコズチ**：ヒコ科 ③ 花8-9  
林地等半日陰に。ヒナタイノコズチ  
より繊細で果穂は軸下向きに着生。



**ホソアオゲイトウ**：ヒコ科 ①  
花7-10 荒地に生え高さ0.6~2mに  
なる。葉先は尖る。



**ホナガイヌビユ**：ヒコ科①花7-10  
葉は心形で全体無毛。葉先は凹ま  
ない。別名アオイユ。



**イヌビユ**：ヒコ科①花6-11  
茎はしばしば紫褐色。若葉は食べ  
られる。葉の先が凹む特徴あり。



**ザクロソウ**：ツルナ科①花7-10  
葉がザクロに似る。種子でよく  
はえる。下の葉は3-5個が輪生。



**クルマバザクロソウ**：ツルナ科①  
花7-9 根元から放射状に茎を出し  
四方に地を這い広がる。



**コモチマンネグサ**：ベンケイ  
ソウ科②花5-7 茎の基部に珠芽が  
できる。種不稔。葉はへら状。



**タコノアシ**：ベンケイソウ科③  
花8-9 花枝がタコの足に似ている。  
湿地を好む。準絶滅危惧種(N.T)。



**イチビ**: アオイ科 ① 花7-9  
葉に軟毛が多い。繊維が採れる。  
タチアオイ、ワタ、オクラも同科。



**オシロイバナ**: オシロイバナ科 ③  
花7-10 栽培品種が野生化した。花は  
夕方開き白、黄、赤花等がある。



**カラスノエンドウ**: マメ科 ①②  
花4-6 葉は羽状複葉、茎は四角で  
柱状。莢に毛は無い。種は5-10個。



**スズメノエンドウ**: マメ科 ①②  
花4-6 カラスノエンドウより小。  
花は白紫。莢に毛有。種は2個。



**カスマグサ**: マメ科 ①② 花4-6  
カラス・スズメノエンドウの中間型。  
莢は無毛。種4個位、巻ヒゲ分岐無。



**シロツメクサ**: マメ科 ③ 花4-8  
牧草。茎は地を這って伸び、周囲の  
植物を占領する。葉は3小葉。



**ムラサキツメクサ**：マメ科③花4-8  
アカツメクサ。牧草。茎は立ち葉  
にV字形の斑紋が。花直下に葉。



**セッカツメクサ**：マメ科③花4-8  
別名シロバナムラサキツメクサ。  
ムラサキツメクサと同種。



**コメツブツメクサ**：マメ科①花5-7  
他のツメクサより葉や花が小さい。  
別名キバナツメクサ。茎は多く分岐。



**ゲンゲ**：マメ科①②花5-9  
レンゲソウ、紫雲英。水田の  
緑肥（根瘤菌着生）が野生化。



**ミヤコグサ**：マメ科③花4-6  
花の形は烏帽子に似てエボシグサと  
も。茎は地面を放射状に這い伸びる。



**シナガワハギ**：マメ科①②花5-10  
コシナガワハギは小形だが両者の  
区別は難しい。托葉は針状で微細。



**シロバナシナガワハギ**: マメ科  
**①②** 花5-10 別名コゴメハギ。  
 豆果に網目状のくぼみがある。



**クサネム**: マメ科 **①** 花7-10  
 湿地に生え葉がネムノキに似る。  
 茎の上部は中空。葉は夜眠る。



**クサフジ**: マメ科 **③** 花5-9  
 花がフジに似る。茎は丈夫なつる性  
 で、豆果は普通5個の種子が入る。



**クズ**: マメ科 **③** 花7-9 秋の七草。  
 根は葛粉や漢方葛根湯に利用され  
 つるはリース等に用いられる。



**ツルマメ(ノマメ)**: マメ科 **①** 花8-9  
 葉は3小葉。小葉は狭卵形~披針形。  
 豆果に毛が密生する。大豆のルーツ。



**ヤブマメ**: マメ科 **①** 花8-9  
 小葉は広卵形。豆果は扁平で種子  
 は3-5個。地下茎の閉鎖花も結実。





**メドハギ**: マメ科 ③ 花8-10  
 茎は直立し分岐多し。葉はくさび形。  
 葉腋に閉鎖花も着く。花は黄白色。



**ヤハズソウ**: マメ科 ① 花8-10  
 葉を横に引張ると支脈に沿いIV字  
 形(矢筈)に切れる。豆果は種1個。



**マルバヤハズソウ**: マメ科 ①  
 花8-10 葉が倒卵形で先端は凹む。  
 托葉は狭卵形で、豆果は円形。



**アレチヌスビトハギ**: マメ科 ③  
 花9-10 全体的に毛が多い。ヌスビ  
 トハギの種は2つ。本種は3-5個。



**ヌスビトハギ**: マメ科 ③ 花8-10  
 果実を盗人の忍び足の形に見立てた。  
 果実のくびれは深く衣服に付着する。



**カワラケツメイ**: マメ科 ① 花8-10  
 果実は、本種は立つがクサネムは  
 垂れる。昔からお茶に利用される。



**ヨウシュヤマゴボウ**：ヤマゴボウ科  
 ③花6-9 高さ2mにも。赤い茎は直立し上部で分岐。果汁はインクに。



**ミソハギ**：ミソハギ科 ③ 花7-9  
 盆花。半湿地を好む。葉は対生で茎を抱かない。中洲にも生える。



**カラムシ**：イラクサ科 ③ 花7-9  
 茎を蒸し繊維をとる。若葉の裏は白く押し花素材に。アカタテハの食草。



**ハゴロモモ**：スイレン科 ③ 花7-9  
 フサジュンサイ。魚の水槽に。沈水植物。舎人公園に群生。カモの餌。



**スイレン(未草)**：スイレン科 ③  
 花7-9 未草：未ノ刻(午後2時頃) 開花し暗くなると閉じる(睡蓮)。



**オオフサモ**：アリノトウグサ科 ③  
 花4-6 抽出植物で日本は雌株のみ。特定外来生物。舎人公園に生育。



**ユキノシタ**：ユキノシタ科  
 ③ 花5-6 湿地や半日陰を好む。  
 葉草。食べられる。



**ウmanosズクサ**：ウmanosズクサ科  
 ③ 花7-9 果実が馬の首に懸ける鈴に似る。ジャコウアゲハの食草。



**トクサ**：トクサ科 ③ 珪酸含量高く  
 砥草で砥石の代用。地下茎で増え  
 茎は中空。ヒメトクサは小さい。



**スギナ**(右写真ツクシ)：トクサ科 ③  
 酸性土を好み地下茎を伸ばし増え、  
 ツクシ(土筆)は孢子体です。



野草観察会の風景(舎人公園野草園にて：2012年)

## 野草画集(日本画)：目黒洋子

野草画の種名(野草名)の説明は、ここでは省略しますが、野草写真の頁を参照下さい。索引(アイウエオ順)で調べられます。



ヒメオドリコソウ(姫踊り子草)



ホトケノザ(別名サンガイグサ)



ノゲシ(別名ハルノゲシ)



ナズナ(別名ベンベングサ)



キュウリグサ(別名タビラコ)：花の先端は蝸牛形のサンリ型花序



ヒメジョオン(姫女苑)



セイヨウタンポポ(西洋蒲公英)



スズメノヤリ(別名スズメノヒエ)



ネジバケ(掬花、別名モジスリ)



サクラソウ(桜草) : 舎人公園に生育



ヘラオオバコ(籠大葉子)



ムラサキサギゴケ(紫鷲後苔)



オオバコ(大葉子)



クサフジ(草藤)



ママコノシリヌグイ(継子の尻拭い、別名トゲソバ)



カラスノエンドウ  
(烏野豌豆、別名ヤハズエンドウ)



ゲンゲ  
(別名レンゲソウ、紫雲英)





メヒシバ(雌日芝、別名メシバ) オヒシバ(雄日芝、別名チカラグサ)



エノコログサ  
(狗尾草、別名ネコジャラシ)



ヒルザキツキミソウ  
(昼咲月見草)



オオマツヨイグサ(大待宵草) : 右は写真です



オニタピラコ(鬼田平子)



ヒガンバナ (彼岸花、別名マンジュシャゲ)



ドクダミ(葎草) 別名ドクダメ(毒溜め)  
ギョセイソウ(魚腥草)、ジゴクソバ(地獄蕎麦)



ツユクサ(露草、別名ボウシバナ)



ナガミヒナゲシ(長実雌雄粟)



イヌタデ(犬蓼、別名アカマンマ)



カタバミ(傍食、片喰、別名酢漿)



オッチチカタバミ(おっ立ち片喰)



スミレ(菫)、タチツボスミレ(立坪菫)



ハハコグサ(母子草)

(別名水オコグサ、オギョウ)

アメリカフウロ(アメリカ風露)

**野草画集(ボタニカルアート)：岡本廣子**

野草の種名(野草名)の説明は省略しますが、野草写真の頁を参照下さい。  
索引(アイウエオ順)で調べられます。



**ホタルブクロ(螢袋)**



**イヌホオズキ(犬酸漿、別名バカナス)**



**ヤエドクダミ(八重枝草)**



**ノブドウ(野葡萄)**



ママコノシリヌグイ(継子の尻拭い、別名トゲソバ)



イヌタデ(犬糞、別名アカマンマ)



ワレモコウ(吾木香)



カラスノエンドウ(烏野豌豆、別名ヤハズエンドウ)





ウラジロチチコグサ(裏白父子草)



ワルナスビ(悪茄子)



ドクダミ(葎草)



トキワツクサ(常盤ツクサ)  
(別名ノハカタカラクサ)



ユウゲショウ(夕化粧)



ヘクソカズラ(屈蔓葛)  
(別名ヤイトバナ、サオトメバナ)



ツクサ  
(露草、別名ボウシバナ)



ムラサキツメクサ  
(紫詰草、別名アカツメクサ)



ニワゼキショウ(庭石菖)



ヒナキキョウソウ(雛桔梗草)



コバンソウ  
(小判草、別名タワラムギ)



ジャノヒゲ  
(蛇の鬚、別名リュウノヒゲ)

## 植物画集1 (日本画: 目黒洋子)



上から左 右順に、サクラソウ、スイセン、コスモス、バラ、ザクロ、ポタン、ピワ、ナツミカン、ハナショウブ、風景、ポタン。

植物画集2 (ボタニカルアート: 岡本廣子)



上左よりドングリ(上: シラカシ、下左: クヌギ、下中: スダジイ、下右: マテバシイ)、クチナシ、アメリカハナミズキ、シュウメイギク。

植物画集3 (ボタニカルアート: 岡本廣子)



上左よりアオキ、ザクロ、バラ、ゴウヤ、ヤマボウシ、ジュンベリー、ピラカンサ、シロヤマブキの実、アネモネ。

## タンポポ探偵団・色々なタンポポを探そう

足立区には、セイヨウタンポポ、カントウタンポポ、セイヨウタンポポとカントウタンポポの雑種タンポポ、アカミタンポポおよびシロバナタンポポが生えています。皆さん探してみましょ。これら5種類のタンポポの見分け方を下に示しました。さあ、全部見つけられるかな？



**カントウタンポポ**

総苞外片は花に沿い上を向く。



**セイヨウタンポポ**

総苞外片は完全に外側に反り返る。

果実（種子）の色は両方とも黄土色。



**雑種タンポポ**



**アカミタンポポ**



**シロバナタンポポ**

雑種タンポポは総苞外片の外側への反り返りが中程度で果実は黄土色。

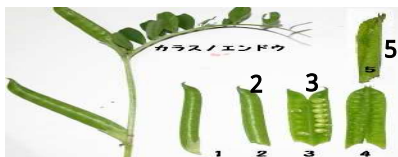
アカミタンポポの総苞外片は外側に反り返り、果実は赤褐色。

シロバナタンポポの総苞外片はやや外側に反り返り、果実は炎褐色。

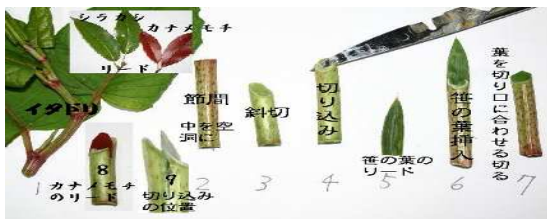
カントウタンポポは交配で種子ができるが、セイヨウタンポポは交配なしで種子ができ（単為生殖）繁殖力が旺盛です。シロバナタンポポも単為生殖をします。アカミタンポポは結実した赤褐色の果実を見て初めてセイヨウタンポポおよび雑種タンポポとの区別が可能です。

## 草笛を作ろう

野草で草笛を作ってみましょう。



**カラスノエンドウの莢笛**：莢を2のように指の爪で切断します。3のように切り開き、豆と白いカスをきれいに爪で取り除きます。5が完成品で、上の尖った方を口にくわえ吹きます。



**イタドリの笛**：イタドリ（アシ、オギでもよい）の茎間を数cm切断する。節間の穴がふさがっていると、楊枝などで穴を広げ片方の切断面を斜切する（吹き口）。吹き口の上の半分より上（上から三分の一位）に刃物で切り込みを行いススキ、ササの葉（リード）を切り込みに挿入する。葉を切断面に合うように切る。これで、完成。切り口を口にくわえ息を吹く。



**タンポポの笛**：茎を適当に手で切断し、写真のように作ります。切断面の片方を指で強くつぶしこれで完成。つぶした方を口にくわえ吹きます。

この他、麦ストロー・スズメノテッポウの笛があります。また葉を口で吹く葉笛、葉を巻いて吹く葉巻笛などもあります。



**ギンギン類(5種類)の見分け方**: ポイントは果実の形です。参考までに葉・茎などの見分け方も紹介させていただきました。



**ギンギン** 同果実  
果実の翼の縁に鋸歯がある。

**エゾノギンギン** 同果実  
果実の翼の縁に棘状鋸歯がある。



**ナガバギンギン** 同果実      **アレチギンギン** 同果実  
果実の翼は広卵形で縁に鋸歯がない。果実の翼は長卵形で縁に鋸歯がない。



**スイバ**: 葉の基部は矢尻形で茎を抱く。果期雌花の翼が目立つ(右写真)。

**ギンギン** : 葉は長楕円形で基部は心形か円形。縁は大きく波打つ。  
**エゾノギンギン** : 葉はギンギンより幅が広くて大きく、ヘリが細かく波打つ。  
**ナガバギンギン** : 全体深緑色で、葉は長楕円形で先が尖り、ヘリが著しく縮れて波打つ。  
**アレチギンギン** : 他のギンギンより外観がほっそりし、葉・茎は、暗紫色を帯びる。

**アヤメ、カキツバタ、ハナショウブの見分け方**：ポイントは花の特徴にあります。



**アヤメ**：葉の幅は狭く、花弁元が網目模様。アヤメ科。



**カキツバタ**：葉の幅は広く薄い。花弁元に白いスジ。アヤメ科。



**ハナショウブ**：葉は中肋目立つ。花弁元が黄色。アヤメ科。



**ショウブ**：肉穂花序。菖蒲湯に使用される。サトイモ科。

### 食べられる野草と毒草

**食べられる野草等**：アカザ、アシタバ、アマドコロ、イタドリ、オオバコ、オランダガラシ、カラスノエンドウ、ギシギシ、クコ、クズ、コウゾリナ、シュンラン、シロザ、スイバ、スカシタゴボウ、スベリヒユ、スマレ、セイヨウワサビ、セリ、ゼンマイ、タネツケバナ、タンポポ、ツクシ、ツユクサ、ツワブキ、ドクダミ、ナズナ、ノカンゾウ、ノビル、ハコベ、ハハコグサ、ハルジオン、ヒルガオ、フキ、ホタルブクロ、ヤブガラシ、ヤマノイモ、ユキノシタ、ヨメナ、ヨモギ、ワラビ。

**毒草**：イヌホオズキ、ウマノアシガタ、ウマノスズクサ、オシロイバナ、ケキツネノボタン、コンフリー(ヒレハリソウ)、スイセン、スズラン、センニンソウ、タガラシ、タケニグサ、チョウセンアサガオ、トウダイグサ、ヒガンバナ、フクジュソウ、ムラサキケマン、ヨウシュヤマゴボウ。

## 索引 花の色

識別困難、開花期：春、夏、秋

**A**(括弧内の数字は頁)

アオコウガイゼキショウ 秋(18)

アカザ 秋(53)

アカミタンポポ 春~秋(34)

アキノエノコログサ 秋(9)

アキノノゲシ 秋(36)

アシ(ヨシ) 秋(10)

アシタバ 秋(42)

アゼガヤツリ 秋(16)

アゼナ 秋(30)

アゼナルコ 春(16)

アメリカアゼナ 夏(31)

アメリカイヌホオズキ 秋(27)

アメリカオニアザミ 夏(35)

アメリカセンダングサ 秋(38)

アメリカフウロ 夏(42,75)

アヤメ 夏(88)

アリアケスミレ 春(48)

アレチウリ 秋(41)

アレチギシギシ 夏(55)

アレチヌスビトハギ 夏(63)

アレチノギク 夏(40)

アレチハナガサ 夏(26)

アワユキセンダングサ 夏(38)

## イ

イ 夏(18)

イガオナモミ 夏(33)

イシミカワ 夏(57)

イタドリ 夏(57)

イチゴツナギ 夏(11)

イチビ 夏(60)

イヌガラシ 春(46)

イヌタデ 夏(56,74,77)

イヌナズナ 春(47)

イヌビエ 秋(11)

イヌビユ 夏秋(59)

イヌホオズキ 秋(28,76)

イヌムギ 夏~秋(10)

イモカタバミ 夏(53)

## ウ

ウキヤガラ 夏~秋(18)

ウシハコベ 夏(44)

ウチワゼニクサ 春(42)

ウマノアシガタ 春(46)

ウシノシッペイ 夏~秋(15)

ウマノスズクサ 夏(65)

ウラジロチチコグサ 夏(35,79)

ウリクサ 秋(32)

## エ

エゾノギシギシ 夏(56)

エノキグサ 秋(49)

エノコログサ 秋(9,71)

## オ

オオアレチノギク 夏(40)

オオアワガエリ 夏(12)

オオイヌタデ 夏(56)

オオイヌノフグリ 春(31)

オオエノコログサ 秋(9)

オオオナモミ 秋(33)

オオカワヂシャ 夏(32)

オオクサキビ 秋(15)

オオケタデ 秋(56)

オオジシバリ 春(33)

オオニシキソウ 夏(49)

オオマツヨイグサ 夏(51,72)

オオバコ 夏(26,69)

オオフサモ 春(64)

オオブタクサ 秋(37)

オギ 秋(10)

オキジムシロ 夏(52)

オシロイバナ 夏(60)

オツタチカタバミ 夏(53,75)

オトコエシ 秋(23)

オドリコソウ 春(24)

オニタビラコ 夏(38,72)

オニドコロ 夏(22)

オニノゲシ 夏(36)

オヒシバ 秋(13,71)

オヘビイチゴ 夏(52)

オミナエシ 夏(23)

オランダガラシ 夏(47)

オランダミミナグサ 春(45)

## カ

ガガイモ 夏(41)

カキドオシ 春(24)

カキネガラシ 夏(47)

カキツバタ 春(88)

カズノコグサ 夏(13)

カスマグサ 春(60)

カゼクサ 秋(11)

カタバミ 夏(53,75)

カナムグラ 秋(50)

カナリークサヨシ 夏(12)

カモガヤ 夏(12)

カモジグサ 夏(11)

カヤツリグサ 秋(18)

カラクサナズナ 春~秋(47)

カラスウリ 秋(41)

カラスノエンドウ 春(60,70)

カラスビシャク 夏(23)

カラムシ 夏(64)

カワヂシャ 夏(32)

カワラケツメイ 秋(63)  
カワラナデシコ 秋(45)  
カワラニンジン 秋(39)  
カントウタンポポ 春(33)  
カントウヨメナ 秋(39)

## キ

キカラスウリ 秋(41)  
キキョウ 夏(29)  
キキョウソウ 夏(29)  
キクイモ 秋(38)  
ギシギシ 夏(55)  
キシウスズメノヒエ 夏(14)  
キショウブ 春(21)  
キツネアザミ 夏(35)  
キツネノマゴ 秋(24)  
キュウリグサ 春(27,67)  
キランソウ 春(26)  
キレハイヌガラシ 夏(47)  
キレハノブドウ 夏(54)  
キンエノコロ 秋(9)  
キンガヤツリ 秋(18)  
キンミズヒキ 夏(52)

## ク

クサイ 夏(18)  
クサネム 夏(62)  
クサノオウ 夏(48)

クサフジ 夏(62,69)  
クサヨシ 夏(12)  
クズ 夏(62)  
クルマバザクロソウ 夏(59)  
クワクサ 秋(50)

## ケ

ケアリタソウ 秋(54)  
ケイヌビエ 秋(12)  
ケキツネノボタン 春(45)  
ゲンゲ 春(61,70)  
ゲンノショウコ 夏(42)

## コ

コアカザ 夏(54)  
ゴウシュウアリタソウ 夏(54)  
コウゾリナ 夏(34)  
コオニタビラコ 春(38)  
コガマ 夏(15)  
ゴキツル 秋(42)  
コゴメガヤツリ 秋(17)  
コセンダングサ 秋(37)  
コナスビ 夏(29)  
コニシキソウ 夏(49)  
コハコベ 春~夏(43)  
コバノタツナミ 春(25、写真なし)  
コバンソウ 夏(14,81)  
コヒルガオ 夏(30)

コブナグサ 秋(14)  
コマツヨイグサ (51)夏  
コミカンソウ 夏(50)  
コメツブツメクサ 夏(61)  
コモチマンネングサ 夏(59)

## サ

サクラソウ 春(29,68)  
ザクロソウ 夏(59)  
サボンソウ 夏(44)  
サンカクイ 夏(17)

## シ

ジシバリ 春(33)  
シソ 秋(25)  
シナガワハギ 夏(61)  
シマスズメノヒエ 秋(12)  
シモバシラ 秋(25)  
シャガ 春(21)  
シャクチリソバ 夏(57)  
ジャノヒゲ 夏(19,81)  
ジュズダマ 秋(15)  
ショウブ 夏(23)  
シロザ 秋(53)  
シロツメクサ 夏(60)  
シロノセンダングサ 秋(38)  
シロバナサクラタデ 秋(56)  
シロバナシナガワハギ 夏(62)

シロバナタンポポ 春(34)  
シロバナマンテマ 春(44)

## ス

スイバ 夏(55)  
スイレン 夏(64)  
スカシタゴボウ 春(47)  
スギナ(孢子) (65)  
ススキ 秋(10)  
スズメウリ 夏(41)  
スズメノエンドウ 春(60)  
スズメノカタビラ 春~秋(11)  
スズメノテッポウ 春(14)  
スズメノヤリ 春(19,68)  
スベリヒユ 夏(52)  
スミレ 春(48,75)

## セ

セイタカアワダチソウ 秋(33)  
セイバンモロコシ 秋(9)  
セイヨウタンポポ 春~秋(34)  
セッカツメクサ 夏(61)  
セリ 夏(43)  
センニンソウ 秋(46)

## タ

タカサブロウ 夏(37)  
タガラシ 春(45)  
タケニグサ 夏(48)

タコノアシ 夏(59)  
タチイヌノフグリ 春(31)  
タチツボスミレ 春(48,75)  
タツナミソウ 春(25)  
タマガヤツリ 秋(16)  
タマスダレ 夏(23)

## チ

チガヤ 春(14)  
チカラシバ 秋(13)  
チチミザサ 秋(15)  
チチコグサ 夏(35)  
チチコグサモドキ 夏(35)  
チドメグサ 夏(43)

## ツ

ツタバウンラン 夏(32)  
ツボミオオバコ 夏(26)  
ツメクサ 春(45)  
ツユクサ 夏(21,74,80)  
ツルボ 秋(19)  
ツルマメ 秋(62)  
ツルドクダミ 秋(55)  
ツワブキ 秋(40)

## ト

トウカンソウ 春(44)  
トウダイグサ 春(49)  
トキワツユクサ 夏(22,79)

トキワハゼ 夏(31)  
トクサ(胞子) (65)  
ドクダミ 夏(58,73,79)

## ナ

ナガバギシギシ 夏(56)  
ナガミヒナゲシ 春(49,74)  
ナギナタコウジュ 秋(25)  
ナズナ 春(46,66)  
ナンバンギセル 夏(27)

## ニ

ニッコウキスゲ 夏(20)  
ニラ 秋(19)  
ニワゼキショウ 夏(21,81)

## ヌ

ヌスビトハギ 夏(63)  
ヌマガヤツリ 秋(16)

## ネ

ネジバナ 夏(19,68)  
ネズミムギ 夏(10)

## ノ

ノカンゾウ 夏(20)  
ノゲシ 春(36,66)  
ノコンギク 秋(39)  
ノジスミレ 春(48)  
ノチドメ 夏(43)  
ノビル 夏(19)

ノブドウ 夏(54,76)

ノボロギク 夏(34)

ノミノツツリ 春(44)

ノミノフスマ 春(44)

## ハ

ハキダメギク 夏(37)

ハコベ(ミドリ) 夏(43)

ハゴロモモ 夏(64)

ハゴロモルコウ 秋(30)

ハゼラン 夏(52)

ハッカ 秋(26)

ハナイバナ 夏(27)

ハナニラ 春(20)

ハナヤエムグラ 夏(28)

ハハコグサ 春(35,75)

ハタケニラ 春(20)

ハマスゲ 夏~秋(17)

ハラン 夏(20)

ハルジオン 春(36)

ハルシャギク 春(39)

ハンゲショウ 夏(58)

## ヒ

ヒエガエリ 夏(13)

ヒカゲイノコズチ 夏(58)

ヒガンバナ 秋(23,73)

ヒナタイノコズチ 夏(58)

ヒメオドリコソウ 春(24,66)

ヒメガマ 夏(16)

ヒナキキョウソウ 夏(81)

ヒメクゲ 夏~秋(17)

ヒメスイバ 夏(55)

ヒメフウロ 夏(42)

ヒメコバンソウ 夏(14)

ヒメジョオン 夏(36,67)

ヒメムカシヨモギ 秋(40)

ヒメミカンソウ 秋(50)

ヒヨドリジョウゴ 秋(28)

ヒルガオ 夏(30)

ヒルザキツキミソウ 夏(51,71)

ヒレハリソウ 夏(27)

## フ

フキ 春(40)

フジバカマ 秋(40)

フッキソウ 春(55)

ブタクサ 秋(37)

ブタナ 夏(37)

フトイ 夏~秋(17)

フラサバソウ 春(31)

ブラジルコミカンソウ 夏(50)

## ヘ

ヘクソカズラ 秋(29,80)

ヘビイチゴ 春(51)



ヘラオオバコ 夏(26,68)

## ホ

ホウキギク 秋(39)

ホオズキ 夏(28)

ホソアオゲイトウ 夏(58)

ホソムギ 夏(11)

ホタルブクロ 夏(29,76)

ホトケノザ 春(24,66)

ホナガイヌビユ 夏(59)

## マ

マツバウンラン 春(32)

マツヨイグサ 夏(51)

マメアサガオ 夏(30)

マメカミツレ 春~秋(36)

ママコノシリヌグイ 夏(70,77)

マメゲンバイナズナ 夏(46)

マルバツユクサ 夏~秋(21)

マルバヤハズソウ 秋(63)

マルバヅルコウ 秋(30)

## ミ

ミコシガヤ 春(16)

ミズヒキ 夏(58)

ミゾコウジュ 夏(25)

ミソソバ 夏(57)

ミソハギ 夏(64)

ミチタネツケバナ 春(46)

ミチヤナギ 夏(57)

ミヤコグサ 春(61)

## ム

ムギクサ 夏(15)

ムシクサ 春(32)

ムシトリナデシコ 夏(45)

ムラサキエノコログサ 秋(9)

ムラサキカタバミ 夏(53)

ムラサキケマン 夏(49)

ムラサキゴテン 夏(22)

ムラサキサギゴケ 春(31,68)

ムラサキツメクサ 夏(61,80)

ムラサキツユクサ 夏(22)

ムラサキネズミノオ 秋(13)

## メ

メドハギ 秋(63)

メハジキ 夏(24)

メヒシバ 夏~秋(13,71)

メマツヨイグサ 夏(50)

メリケンガヤツリ 秋(17)

## ヤ

ヤエムグラ 夏(28)

ヤセウツボ 夏(27)

ヤナギタデ 夏(57)

ヤハズソウ 秋(63)

ヤブガラシ 夏(54)

ヤブカンゾウ 夏(20)

ヤブジラミ 夏(43)

ヤブマメ 秋(62)

ヤブミョウガ 秋(22)

ヤブラン 秋(21)

ヤマノイモ 夏(22)

## ユ

ユウゲショウ 夏(51,80)

### ヤセウツボがアベリアに寄生

葉緑素を欠く完全寄生植物ヤセウツボがアベリアに無数寄生していました(2011年、下写真)。ヤセウツボはマメ科、セリ科、キク科に寄生することは知られていますが、樹木に寄生する報告は、Web・検索ではヒットしません。ヤセウツボと同属のハマウツボはキク科のヨモギの仲間に寄生します。樹木の根に寄生するものは、ヤマウツボ、キヨスミウツボなどが知られています。



太いヤセウツボの茎から出ている根がアベリアの根に進入寄生しています(写真右上)。

ユキノシタ 春(65)

## ヨ

ヨウシュヤマゴボウ 夏(64)

ヨモギ 秋(39)

## ワ

ワルナスビ 夏(28,79)

ワレモコウ 秋(52,78)



ヤセウツボがアベリアに寄生



ヘクソカズラの巻き方(左巻)



アサガオの巻き方(右巻き)

以前はこの反対の巻き方を表示。色々な蔓を巻く野草を探そう。

### つる植物の巻き方

## 主な参考書籍等

世界の植物(週刊朝日百科): 朝日新聞社(1975-78)

原色牧野日本植物図鑑(1、2、3): 北隆館(1986)

野に咲く花(2005)、山に咲く花(2002)(山溪ハンディ図鑑): 山と溪谷社

野草図鑑・見分けのポイント: 講談社(2005)

足立区の野草: 舎人公園ボランティア(2008)

日本帰化植物写真図鑑(2008) 同第2巻(2010): 全国農村教育協会

監修: 清水猛(緑花文化士)・綿引寿三郎(緑花文化士)

## 冊子作成分担

野草の解説と写真など: 津村昭人(元農林省農業技術研究所

主任研究官、読売・日本テレビ文化センター北千住講座

“花と緑をもっと知ろう”元講師、農学博士)

植物の花の構造などのイラスト: 戸張守裕(植物、写真愛好家)

野草画: 目黒洋子(日本画)、岡本廣子(ボタニカルアート)

本冊子作成にご協力をいただいた舎人公園ボランティア

舎人公園サービスセンターの皆様には謝意を表します

## 足立区の野草ポケットガイド

発行: 足立区の新しい環境生活を推進する会

2013年9月1日発行

関連ホームページ

<http://jusa.sakura.ne.jp/>

<http://tumu-tumu-tsumura.blog.so-net.ne.jp/>

事務局: 足立区の新しい環境生活を推進する会

印刷製本: (株)農文協プロダクション

無断での転載、複写複製はご遠慮下さい



## 足立区の新しい環境生活を推進する会

この冊子は公益信託「あだちまちづくりトラスト助成事業」の助成金を元  
に出版されました。